



徳島県立総合高等学校広報紙

まなびーあ徳島便り

第6号
編集・発行
徳島県立
総合高等学校

オンリーワンとくしま学講座 平成25年度(前期)本部主催講座

第1回講座

人生、いろどりくもうヒトハナ咲かそく

現場主義の体験を紹介



平成25年5月25日(土)

徳島県立総合教育センター(板野町)で、地域の高齢者を活用した「葉っぱビジネス」で全国的に知られる徳島県立総合教育センター(板野町)で、地域の高齢者を活用した「葉っぱビジネス」で全国的に知られる

「現場に足を運び、実際に自分の目で確かめ、現実から学ぶ姿勢が

大切。地域や人を理解し、地域独自の仕組み、個々の力を引き出し組織を活性化させるプロデューサーの存在等が地域の活性化の機動力に結びつく。」

講演後、参加者の一人は「高齢者になっても役割を持って仕事ができるのはすばらしいと思う。自分にも何ができるか考えさせられた。できる、できないと考えるより、どうしたらできるかという手段を考えることが大切だと分かった。」と話していました。



第7回講座

男女共同参画社会の実現と医療の変革

自分の健康に責任を



平成25年7月20日(土)徳島県立総合教育センター(板野町)で、表題の講演がありました。

講師は、徳島大学AWAサポートセンター長・大学院(薬学系)教授の山内あい子さんと、約100人が参加しました。

女性の各分野への進出割合

男性に比べてまだまだ低く、各分野への女性の一層の進出が望まれます。(教育分野(大学進学率が低く、理工系の専攻が少ない)、労働分野(管理職割合・賃金が低い)、政策や意思決定分野(議員割合が低い)など。)

日本社会の問題

- ①人口減少と高齢化社会
急速な少子化と高齢化、晩婚化と高齢出産、生産年齢人口の減少、などは、国力の低下につながっていきます。
- ②社会保障の経費増大と財源不足
高齢化に伴い、年金や医療費、介

護保険費などは増大の一途です。平均寿命が伸びている一方、健康寿命(自分のことは自分でできる年齢)との差が男女平均で約10歳あることはその一例です。

これらのことにどう対処したらいいのか、今後の重要課題となっています。

③これからの医療

「自分自身の健康は、責任を持ち、軽度な身体の不調は自分自身で手当てする。」ということが望まれます。

感想

よりよい社会をつくるためには、女性の社会への進出割合の向上、医療費の削減に一人一人が自覚して努力めることが課題であると感じました。



徳島県立総合高等学校開校5周年記念本部主催講座

平成25年6月16日(日)
徳島県自治研修センター

とくしま学博士による論文発表

信仰が絆を紡ぐ

内藤慎介氏の記念講演「八重の桜が伝えるもの」に先立ち、とくしま学博士沖野勝徳氏による「霊山寺と四国遍路の変遷」と題する論文発表がありました。

沖野氏がこのテーマを選んだのは、人と人との絆を紡ぐ要因の一つである「日本人の心と信仰」について調べてみたいと思ったことがきっかけでした。

◆四国遍路1番札所・

霊山寺について

霊山寺は、聖武天皇の勅願により創建されたと言われており、四国霊場として開祖したのは奈良時代の僧行基でした。

弘仁六年(815年)弘法大師が霊山寺にて修行をした際、釈迦如来が霊鷲山で説法している姿に感得し天竺の霊山を倭国に移すという意味の「竺和山 霊山寺」と命名しました。霊山寺が一番札所となったのは、

江戸時代前期の僧真念が「四国遍路道指南」の中で案内したことにより



◆四国遍路について

四国遍路は、空海の修業の足跡を弟子達が山野を駆け巡り遍路修業をしたことが起源といわれています。

天正十三年(1585年)、蜂須賀家政の入部後、阿波では臨済宗が広まっていたが、家政は病人の遍路人が滞留するほど遍路を保護しました。反面、

駅路寺(真言宗八ヶ寺)を設置し、阿波九城と連携することで、四国遍路を軍事的な防衛機能の一環としていました。

江戸時代の四国霊場は、主体的な信仰の場を求める人々が霊場を巡拝して遍路修業を行うことで、現世利益を願望する巡礼者が増加しました。

接待・禅根宿等による地元の人々と巡礼者の交流により、他国との情報交換が行われ、四国遍路が全国の産業や文化の発展に寄与しました。

◆おわりに

困難に立ち向かうには、解決策を歴史に学ぶことが大切です。無力感に沈むことなく、過去、現在を未来に繋いでゆかねばならないと思うばかりです。

◆講演の感想

歴史的、政治的、宗教的背景から様々な考察がなされ聴講者の知的好奇心をくすぐり、様々なテーマへの広がりを感じさせる素晴らしい論文発表でした。

記念講演 ～八重の桜が伝えるもの～

敗者から見た歴史語る

徳島県出身の内藤慎介氏による「八重の桜が伝えるもの」と題して大河ドラマ制作の意義、苦勞話などを交えた記念講演が開催されました。

■大河ドラマ制作について

NHKの大河ドラマは放映の3年ほど前から準備を始めますが、3～5作の制作案が計画され、それぞれのプレゼンテーション、時代背景等制作の意義を考慮して決定します。

放映中の「八重の桜」もその中の1つで、計画の時に3・11の東日本大震災が発生し、東北の人達の力強さとドラマのストーリーがリンクし注目されたことにより最終的に決定されました。

歴史書は勝者側から見た記録が多いのですが、「敗者側から」と見るとまた違った歴史がみえて来る」との考えで制作しました。

大河ドラマは非常に影響が大きいため脚本を書くには様々な文献、綿密な調査を行います。それでも制作途中で新しい事実が出てきたりして脚本の変更を余議なくされることも有ります。



■大河ドラマが伝えるもの

今回のドラマは、会津人の「ならぬものはならぬ」の精神、道徳心、意志の強さをテーマに制作しています。

戊辰戦争で賊軍とされ、負けることが分かっていても戦わなければならなかった会津人の生きざま、家族愛を会津の女性(山本八重)を通して表現し、そして自分達は決して間違っていないことが後の歴史が証明してくれることを信じて戦いました。

歴史は見る方向で変わってきます。大河ドラマが新しい歴史を見つける扉になってほしいと思います。大河ドラマは家族で見ると対話が広がる、そういう観点から見るといいと思います。

■題名「八重の桜」の由来

桜は散る時が美しいではありません。桜はポジティブな植物です。なぜなら1卵生なので、谷底の桜も山の上の桜も同じ日に咲こうとする絆の強さがあります。そのことから「八重の桜」にしました。

■講演の感想

江戸時代末期の混乱の中で、信念と勇気を持って理不尽な状況を打破しようとして戦った会津魂「ならぬことはならぬ」の精神を強く感じ、現代の社会は意志の強さ、道徳心が薄くなってきたのではないかと、改めて考えさせられるきっかけとなりました。

講座紹介コーナー(6)

塗り絵で心をのぞく

徳島県立総合大学校県民参加型自主講座

心を元気にするアートセラピー講座

「色彩学校」認定講師 色彩心理カウンセラー 佐藤 千恵氏
《このころを色や絵で表現するセラピー体験》

この講座は、前期(4～9月)、後期(10～3月)に分かれ、徳島県立総合教育センター(板野町)で開催されています。(全11回)

6月28日に行われた前期第3回は、参加者が12名、講座のテーマは、『選んだ色でわかる「大切な人との心のキヨリ」コミュニケーション上手になろう!』というものでした。

◆講座の概略

「家族のティータム」と称された塗り絵が用意され、円形の盆の上にコーヒーカーツプやビールジョッキなど大小五個の容器、盆の外には注ぎ口の付いた蓋付き容器が描かれています。

受講生は、塗り絵のそれぞれの容器を家族の誰かに見立てて色鉛筆やクレヨンで色づけし、自分の表現した塗り絵の色つけ根拠等について、お互い発表し合いました。

講師は、東日本大震災の被災地の子供が海の色を恐



怖や怒りを意味する「赤」で表現していたことを例に出すなど、受講生の発表を心理学的に分析して、受講生やその家族についての現時点での心の状態や健康状態までも言い当てていました。受講生の一人は、「人は、色使いによって色々な自己表現をしていることがわかり、びっくりした。」と話していました。

◆講座の感想

塗り絵といえは、子供の遊びのように思っていました。その色使いで、人の深層心理までわかってくることに驚きました。

社会にあふれる色彩にもっと関心を持ち、コミュニケーションの道具として上手に利用すれば、楽しくまた、豊かな人生になるのではないかと思いました。

講座紹介コーナー(7)

色使いの基本を学ぶ

徳島県立総合大学校県民参加型自主講座

初歩からの色彩学

カラーコンサルタント 色彩検定協会認定色彩講師・AFT色彩検定一級 吉崎 礼子氏

平成25年度前期講座で徳島県立総合教育センター(板野町)において「初歩からの色彩学」が全6回開催されました。

6月20日に行われた前期第3回は、定員いっぱい10名の参加者がありました。

■講座の内容

「色彩の基本」・「色とイメージ」・「色彩の活用(色彩心理)」・「配色のルール」・「暮らしに活かす色」・「色彩と文化」などのテーマで、目的に合った活用方法などをやさしく初歩から学べるというものでした。これは、自己表現やコミュニケーション、情報発信、創作活動に役立てることが出来ます。

また、『色相』(色合いの違い、赤・青・黄といった色の違い)、『明度』(色の明るさ)、『彩度』(色のあざやかさ)、これらの3つの性質は色を知る基本の第一歩となり、色は無限大に変えられるということ、また、『光の三原色』と『色の三原色』の違いについてのお話がありました。



平成25年度後期(10～3月)講座紹介

似合う色で美しく「カラーコーディネート講座」講師 吉崎 礼子氏 (色彩の基本、個々のイメージに合うコーディネートを学び、自己表現力アップを目指す。)

■ワークショップ 「暮らしに活かす色」など、テーマを決めて、それぞれのイメージを「配色カード」を使うなど、作った色の組み合わせやデザイン、『十人十色』本当に個性的な表現がありました。

■講座の感想

ゆつくりと落ち着いた話し方で、和やかな雰囲気の中、カラフルなテキストを使っての講座でした。具体的にイメージを膨らませたり、効果的な活用を考えるなど、楽しく参加できました。

とくしま学博士に聞く(6)

若者に頼らず高齢者支援

平成22年度認定
とくしま学博士

上田 泰生 さん



インタビューにて

◆とくしま学博士を
目指した理由は◆
若者より高齢者が多い時代。若者が高齢者を支えるという従来のスタイルは維持できない時代です。今後、高齢者が得意な分野を大いに活用し、若者を頼らずに、高齢者を支援していく必要性を感じていました。では、自分の役割は、と考えた時、仕事でも使ってきたパソコンなら、高齢者の支援と共に、自己を磨くという意味でも最適ではないかと、とくしま学博士に挑戦してみようと考えました。

◆どのような学習をして
とくしま学博士に◆
シルバー大学院、またシルバー大学院ICT講座で学びSITAI

◆今後の活動方針を
お聞かせ下さい◆
NPO法人での具体的な活動を予定
また、不具合を生じた家庭でのパソコンの修復などの要請に答えて、戸別訪問ができたかと考えています。

◆インタビューを終えて◆
ICT講座で、静かに、淡々と、第一線で、まさに高齢者が高齢者を支える活動をされておられ、いつも敬服しています。

◆現在どのような活動を
していますか◆
徳島県シルバー大学院ICT講座の専任補助講師3年目です。昨年一昨年に続き、「まなび—あ徳島」広報紙作成講座の講師、阿南市成人大学パソコン講座の講師、いきいきネットの講師、等をしていきます。



広報紙作成講座にて



高瀬の潜水橋にて

協川さんBSデビュー
橋を語る

平成25年7月22日(月)放送のテレビ番組「千の川物語」にっぽん美しき水風景」(BSジャパンにて毎週月曜日22時54分〜23時54分放送中)にとくしま学博士の脇川弘さんが出演しました。

この番組は、毎回1つの川を取り上げ、美しい川風景、水とともにある暮らし、川が生み出した日本の伝統産業や伝統文化などを紹介するものです。

高瀬の潜水橋などでロケが行われ、吉野川の美しい風景とともに、脇川氏による阿波中央橋の建設にまつわる話などが放映されました。

「とくしま学博士」
「ニュース」
まなび—あ徳島

《編集後記》

編集委員は、「広報紙作成講座」修了者の中から自発的に参加していて、多彩(いろいろ)な経験や才能の持ち主から構成されています。取材担当者は膨大な量の記事内容をまとめるのに苦労しています。編集会議では、記事についてそれぞれの視点から忌憚のない厳しい意見も出ます。それでも、自由闊達、かつ和気あいあいの雰囲気の中でだんだん文章がまとまってくる。

限られた紙面に如何にコンパクトで分かりやすくまとめるか、編集委員の悩みの種です。

- 【編集委員長】 小宮山昭三生
- 【副編集長】 谷崎 吉行
- 【編集委員】 新井 義治
- 伊藤 花代子
- 岡田 公子
- 折上 公子
- 中島 美智代
- 横田 千栄子



連絡先

〒七七〇—〇〇四五
徳島市南庄町五丁目七七七一
自治研修センター内
徳島県立総合大学校本部
電話番号〇八八—六二—八八〇一
ファックス〇八八—六二—八八〇五
電子メール manabi@pref.tokushima.lg.jp
まなび—あ徳島ホームページ
<http://manabi.tokushima-eccd.jp/>